

本市の現状

本市の民有林(国有林を除く県・市・私有林)のうち、天然林である広葉樹が占める割合は55・3%、人工林であるヒノキ・スギが占める割合はそれぞれ30・9%、12・0%となっています。

天草地域から搬出される天然林

本市の現状

山主の高齢化や市外への転出により、森林の管理が進まず、林業従事者も減少傾向にある中で、天草産材の搬出量が低迷するとともに、森林の持つ防災・保健機能などの低下が懸念されています。

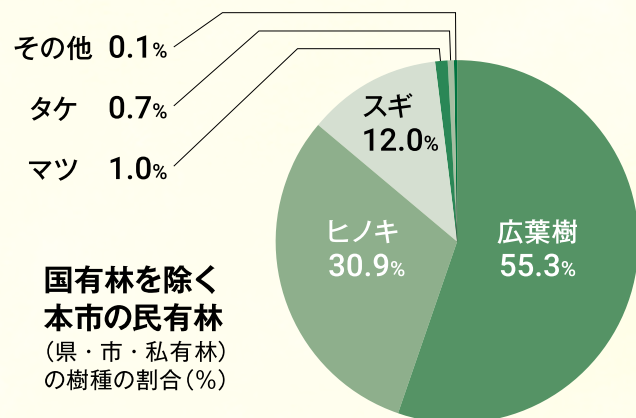
このような課題に対して、市内の既存事業者などと連携・協働しながら、持続可能な森林経営と他産業との連携強化、人材育成や雇用創出を通じて、天草の地域課題の解決を図ることを目的に取り組みを始めました。

取り組みを始めた経緯

山主の高齢化や市外への転出により、森林の管理が進まず、林業従事者も減少傾向にある中で、天草産材の搬出量が低迷するとともに、森林の持つ防災・保健機能などの低下が懸念されています。

林業6次産業化とは

の9割は、市内水産加工業者で雑節などを加工する際の燻製用まきとして、または市外の製紙工場、バイオマス発電所のチップ用材として搬出されています。また、天草地域で行われている人工林の施業(植林から伐採まで、その時々に必要な作業)の9割以上が間伐です。



川上 木を育てる伐採を行う

森林所有者、林業経営者、森林組合など



川中 木材を加工する

製材工場、丸太流通関連業者、プレカット事業者など



川下 木材を使用する

家具製造業者、建設会社、工務店など



天草産材の特徴を生かしたさまざまな取り組み

- ・商品開発や地域材のブランド化
- ・木育や森林体験を通じた魅力PR
- ・未利用広葉樹の活用 など



1次 × 2次 × 3次 6次産業

1次産業を川上、2次を川中、3次を川下と表現すると、この川上から川下までをうまくつなぎ、掛け合わせ、一体となつてなりわいを発展させるものを6次産業と呼んでいます。

天草産材の特徴を生かしたさまざまな事業展開を目指します。

さまざまな利用方法を見出し、流通体制を強化する仕組みの構築、木育や森林体験なども取り入れながら、天草産材の魅力を市内外へPRし、さらなる利用促進や販路拡大、新たな価値を生み出すような事業展開を目指します。

林業6次産業化のイメージと目指すところ



天草の林業の新たな可能性 林業6次産業化の推進

本市の土地面積683.82km²のうち、約7割を森林が占めており、本市は森林資源が豊富であるといえます。

森林には、二酸化炭素を吸収する機能をはじめ、土砂災害を防止する機能、水を育む機能、心身に安らぎを与える保健機能など多くの機能があります。

今号では、これら森林が持つ多面的機能を十分に発揮できるように、また市内の林業を活性化できるように取り組みを進めている林業6次産業化について紹介します。

☎ 農林整備課 ☎ 32-6793



まずは知ろう！森林が持つ多面的機能とは

森林は、国土の保全、水源の涵養、脱炭素社会実現への貢献など多面的機能を有しており、それらを発揮することで国民生活にさまざまな恩恵をもたらす「緑の社会資本」と呼ばれています。

01 生物多様性保全

遺伝子保全、生態系保全など



02 地球環境保全

地球温暖化の緩和、二酸化炭素吸収など



03 土砂災害防止 土壌保全

表面浸食防止、表層崩壊防止など



04 水源涵養

洪水緩和、水質浄化など



05 快適環境形成

気候緩和、大気浄化など



06 保健レクリエーション

健康増進、森林浴によるリフレッシュなど



07 文化

史跡や名勝のある景観の構成、学習の場の提供など



08 林産物の生産

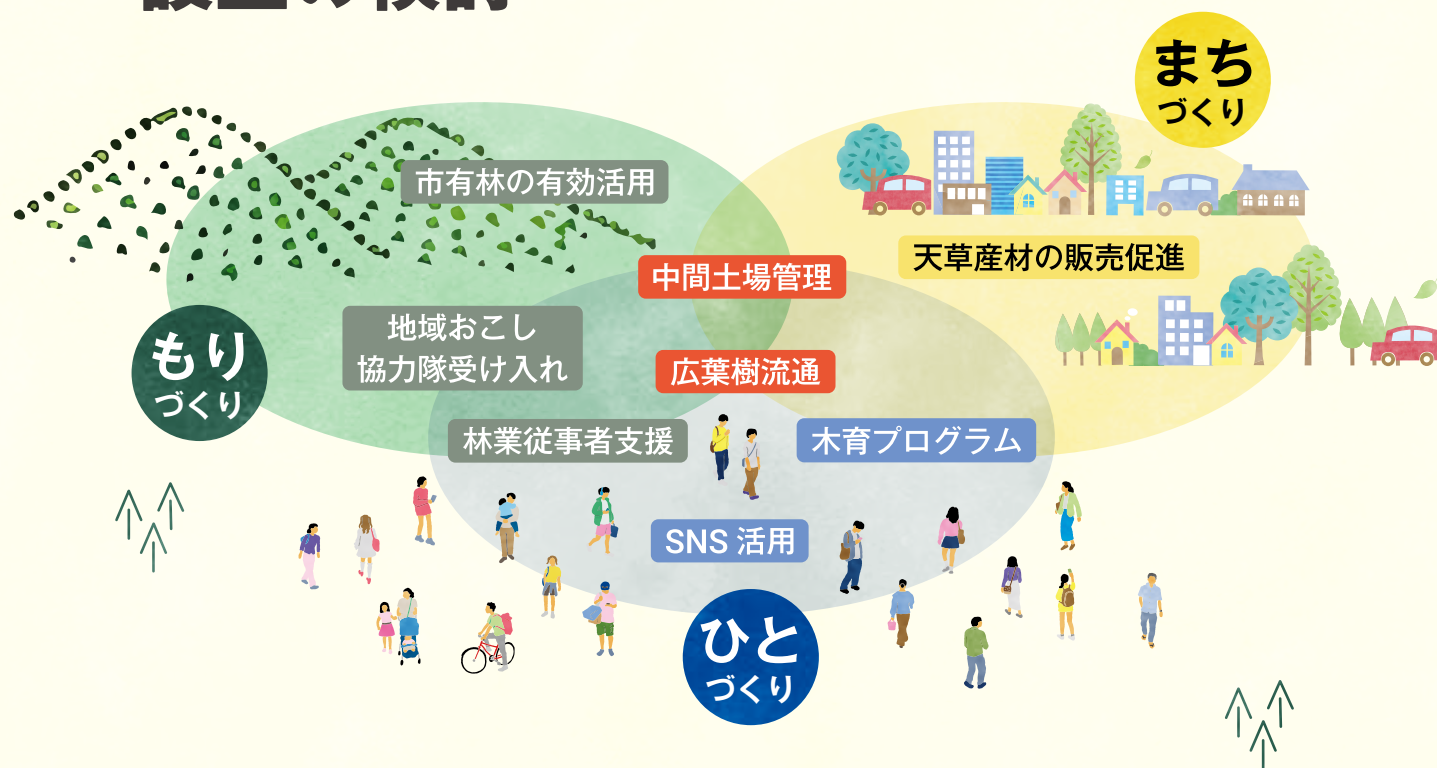
木材やキノコ等の林産物の産出など





地域商社の設立の検討

林業6次産業化の中核を担う組織として、令和8年度中の設立に向け検討しています。地域商社は川上、川中、川下をつなぐ地域プレーヤーとして、適切な森林整備と持続可能な林業経営を目指します。



地域商社の設立で得られる効果（一例）

もりづくり

市有林の有効活用

森林経営に適さない急傾斜地や保安林でもJ-クレジットを創出できる。

地域おこし協力隊の受け入れ

地域に不足する林業従事者が確保できる。
※詳細を8ページに掲載

林業従事者支援

事業体に属さない林業従事者が安心して施業できる環境(研修制度の構築)が整備できる。

まちづくり

天草産材の販売促進

空き家のリノベーション材などに活用することで、地域内外で天草産材の利用が増える。

ひとづくり

木育プログラム

森林の大切さを学ぶことで、森林や林業に対する理解が進み、子どもたちの将来の選択肢として林業や木材関連産業が挙げられるようになる。

SNS活用

森の魅力を宣伝することで、地域外からの訪問や地域産木材が広く流通するきっかけとなる。

もりづくり × まちづくり × ひとづくり

中間土場管理

広葉樹材の安定供給と高付加価値化が期待できる。

広葉樹流通

家具メーカーや水産加工業者など適材適所に流通できる仕組みを構築できる。

インタビュー

1次産業で働く人の紹介

林業の魅力や楽しさを知ってほしい



天草地域森林組合
森林整備員
はなしま やすあき
畑島 保昭さん

森林組合に入ったきっかけは何ですか

森林組合で働いていた友人の紹介で平成21年に入組し、今年で17年目になります。現在は7班ある作業班のうち、1つの班の班長を任されており、作業員6人で協力しながら作業を行っています。

主な仕事内容は何ですか

木が密集している山の間伐をして、切った木を搬出しています。木も間引かないとお互いが養分を取り合って成長しないため、間伐は山を育てるために欠かせない仕事です。

やりがいや大変なことはありませんか
急傾斜の山を歩いて行ったり、夏場は暑いので特に作業するのが大変だったりしますが、自分たちで間伐した山がきれいになったのを見ると、頑張った良くなったと思います。また、きれいな山を見ると楽しくなります。

天草の林業についてどう思いますか

天草の山は、阿蘇や人吉に比べると小さく、大きな道が入っていないため、木の搬出作業などの作業効率が悪くなる場合があります。でも、山を手入れしていくことで災害の防止、ひいては住民の暮らしを守ることにもつながるので、林業は天草に欠かせない存在です。

また、林業6次産業化が進むことで、天草産材の販路拡大などにつながればと期待しています。

今後取り組みたいことはありますか
とにかく一緒に働く仲間が増えてほしいです。現場に入って、自分たちで間伐した山がきれいになれば楽しいし、やりがいも出てきます。山の仕事の楽しさが分かれば入ってくる人も増えてくると思うので、林業の魅力を広く伝えていきたいです。

林業6次産業化の目指す姿

林業における「施業地の整理・確保」や「素材生産者の確保・育成」を担うことで、素材生産者の増加と素材生産量の安定化および高付加価値化につなげ、適切な森林整備と持続可能な林業経営を目指す。

課題

取り組み

得られる効果

✓ 広葉樹材の高付加価値化

・より高値で販売できる可能性がある木材もチップやまきに加工されている。

中間土場の設置

・中間土場で在庫の適正な振り分けを行うことで、市産材の安定した流通につながる。

✓ 市有林の管理および販路不足

・広大なため、全ての森林で適正な管理が困難な状況である。
・地域産材は地域内での需要が少なく、製材品の販路が不足している。

適切なゾーニング

新たな販路の開拓

・市有林を有効活用することにより森林の多面的機能が発揮できる。
・リノベーション材への利用や木育などのイベントを通して販路を開拓していく。

✓ 林業従事者(人材確保・安全面)

・林業従事への理解を促進する機会が乏しく、担い手が少ない。
・大型の林業機械等、力の強い作業機械を扱うため、けがなどのリスクが大きい。

積極的な人材募集

人材育成制度の構築

・木育のイベントなどで林業へ興味を持ってもらい、林業従事者の確保を図る。
・林業従事者が安心して施業できるように、装備品や労災保険など労働環境の整備を行う。



天草産材の地産地消で稼げる林業に

どのような仕事をしていますか
主に、木造住宅の設計から施工まで、一連の建築工事を行っています。
また、自社に木材を加工できる製材所も構えているので、フローリングなど一部は同じ市内の製材所から仕入れたものを使っています。それ以外の材料については全て自社で製材したものを使っています。
取り扱っている木材の産地は主にどこですか
住宅に使う木材は、全て熊本県産を使っています。県内の



有限会社 松本建設
代表取締役
まつもと ゆきひろ
松本 幸裕さん

4カ所の市場からそれぞれ仕入れていますが、天草の市場は1カ所だけなので、県内産のうち天草産材の使用量は3割程度となっています。

天草産の木材はどうですか？

天草はヒノキが多いと感じています。ヒノキは粘りが強く、スギより硬く広葉樹より柔らかいのが特徴で、香りも良いので住宅の材料に適していると思います。

天草の今後の林業についてどう思いますか

天草の木材は伐採に適した時期になってきたので、大きな木材が出てくると天草の市場で購入できる材料も増えてきて、運搬費など経費も削減できると思います。

また、6次産業化が進むことで、林業全体が潤ってくればいいなと思います。地元の職人が地元で木材を調達し、地元で仕事をする。そうすることで天草内でお金が回るので、このような好循環が生まれることを期待します。

地域おこし協力隊の受け入れ

林業の担い手を確保する手段の一つとして、今年度新たに地域おこし協力隊の受け入れを始めました。隊員のミッションは「市有林の適切な管理、天草市型小規模林業（自伐型林業）の構築」で、隊員は天草地域森林組合で最長3年間の研修などを受け、任期終了後も地域で林業に従事できるスキルを習得します。

小さな林業、大きな可能性

～自伐型林業フォーラムin天草～

持続可能な森林管理を目指す小規模でも始められる「自伐型林業」について学んでみませんか。

☎ 農林整備課 ☎ 32-6793

とき 11月18日(火) 18:30～21:00 (18:00開場) ところ 天草市民センター 大会議室

内容 ■基調講演 自伐型林業推進協会代表理事 中嶋健造さん
■話題提供（事例紹介） ・芦北町農林水産課 曾我部亮輔さん
・「智頭ノ森ノ学ビ舎」事務局長 國岡将平さん
■パネルディスカッション

定員 180人（先着順） 申込方法 11月12日(木)までに電話、または二次元コードから申し込んでください。



▲申し込み

森林は、植え付けから間伐などの手間を経て、木材として利用する樹木を伐採・搬出する「主伐」まで50～60年の年月がかかるといわれています。
森林は、二酸化炭素の吸収や防災、林産物の供給など多くの機能を有し、私たちの生活に欠かせない大切な資源です。
天草の大切な森林や森林資源を将来に渡って守り続けるとともに、林業の活性化を図るため、天草の木を使うなど、健康な森づくりのために皆さんも一緒に取り組みましょう。



毎年11月1日～7日は
「文化財保護強調週間」です

風光明媚な牛深から天草西海岸を中心に残る遠見番所跡などを紹介します。

☎ 文化課 ☎ 32-6784

天草の遠見番所・烽火台



牛深遠見番所跡推定地（遠見山山頂）から東シナ海を望む



(●は市指定文化財)

天草では寛永18(1641)年から享保2(1717)年までの間に富岡・大江崎・魚貫崎・高浜大野崎・牛深※1・崎津に「遠見番所」が、享保5年以降に魚貫崎・高浜荒尾嶽・富岡(白岩崎・元袋山)・通詞島に「烽火台」

が設置されたことが古文書に記されています。また、寛政11(1799)年には長崎奉行所直轄の牛深湊見張番所と、銀杏山(現在の遠見山)に遠見番所と中番所が新設されました。※2

いわゆる鎖国体制の確立に伴って西国諸藩に遠見番所が整備され、長崎警備・異国船の監視などに重きが置かれていたものが、密輸船の監視と拿捕も重要になってきたので、遠眼鏡(望遠鏡)も配備されるようになったものと思われます。湊番所役人は長崎奉行所から派遣されており、江戸幕府・長崎奉行所が牛深の警戒強化を重視していたことが、「御役方要用記録」など長崎奉行所側の記録からも読み取ることができます。文化元(1804)年にロシアのレザノフが長崎に来航したとき、最初に発見して長崎に飛船で知らせたのは牛深遠見番所・湊見張番所です。このように江戸幕府の海上防衛対策上、大きな役割をもった天草の遠見番所も明治維新によってその役割を終えました。

遠見番所の5つの役割

- ①異国船の来航監視・抜荷(密貿易)取り締まり・漂着船の処理
- ②難破船の救助
- ③造船・解船・売船の監督
- ④浦方に関する違法行為の摘発
- ⑤旅船と旅人の入・出島の管理



烽火台の役割

近世日本の沿岸警備において、烽火は最速で有事を知らせるツールとして盛んに使用されたものと推測できますが、その痕跡をたどることは難しい状況です。その中で、天草には比較的良好な遺構が残っている場所が多く、古文書にも記載がされています。元から設置していた遠見番所のシステムを一部利用して、遠見番所がない場所には新たに烽火台を設置することで、最終目的地まで情報を伝達しようとしたことが分かる貴重な文化財です。

なお、文化6(1809)年には高浜村庄屋の上田宜珍が荒尾嶽の烽火台に登って長崎奉行所主催の運用試験をした記録がありますが、実際の有事に利用されることはありませんでした。



荒尾嶽(現・荒尾岳)の烽火台遺構

※1 当初設置された場所について、今のところ詳細は分かっていません。

※2 令和6年12月号「学芸員のイチオシ」に掲載した牛深遠見番所跡の写真は、公園工事で烽火台を復元したものでしたが、「新設当時から位置を保っている」と誤解を与える表現になっていました。